

ファナック株式会社
2021 年度第 3 四半期 決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨
(2022 年 1 月 26 日開催)

Q. 半導体などを中心とする供給不足の状況について、アップデートをお願いします。2Q では、半導体などの供給不足が想定以上に厳しいということで下方修正されました。3Q は前四半期比で増収増益、通期予想も上方修正されました。4Q は前四半期比で微減収の予想ですが、外部環境、そして会社の取り組みで変化があったことを教えてください。

A. 2Q での下方修正は、半導体をはじめとした部品不足により生産と売上が落ちたことによるものです。3Q での部品の調達状況は、少しずつ良くなっている面もありますが全般的には厳しい状況から変わっていません。そうした中で設計変更や市場流通部品の確保などにより何とか生産をつなぎ、2Q より多く生産できました。半導体を中心とした部品調達のタイトさは半年程度は変わらないと覚悟しており、4Q の生産と売上もほぼ横ばいと見えています。引き続き部品調達に努めて何とか 1 台でも多く作り、お客様のもとに届けるべく、全力を挙げています。

Q. ロボットの生産について、今は本社地区と筑波地区で行っていますが、壬生工場を含めた今後の能力増強について教えてください。

A. ロボットは、月産 11,000 台の生産能力が一杯になる時期がそろそろ見えてきている状況です。社内の空きスペースの利用や効率アップにより月産 14,000 台程度まで目途が立っており、さらに月産 16,500 台程度まで新しい建屋を造ることなく生産能力を伸ばそうと検討しています。ただロボット市場は高い伸びが予想されているためこれで持つのはおそらく数年というレベルと見ており、次の手として筑波工場にロボットの新工場を建てるのが考えられます。さらに増えるようであれば、その次に壬生工場での展開という選択肢が出て来るかもしれません。

Q. アニュアルレポートで、ロボットについて多額の設備投資により自動化率を極限まで高めてきた従来方式に加え、新しい動きとして投資を抑えながら生産を分散させて安定供給を継続するような事例も示しています。ファナックが目指すビジネスについて教えてください。

A. 大手製造業では、大規模な設備を導入した完全自動化は今も行っており、今後もそういった方向性は残ると思いますし、重要なところですが、一方で、多品種少量生産あるいは我々が一般産業と呼んでいるところでは大規模投資を行わずに費用対効果の高い自動化を段階的に進めるケースも増えると思っています。こうしたニーズに合う商品も開発していきます。

Q. 中国を中心とする受注環境について教えてください。

A. 資料 8 ページで中国の FA が減少とありますが、我々の生産が追いつかず受注残が増えたためお客様が発注を調整していることによるもので、需要は引き続き旺盛で我々が供給できればもっと売れる状況です。ロボットの増加は、自動化の動きが盛んで需要が非常に旺盛であるためです。需要は多岐に渡りますが、目立つのは車の電動化関係、IT 関係です。ロボマシンについては、先々の見通しはなかなかつきにくいのですが、4Q はある程度の需要を想定しています。

Q. ロボットの受注高が 909 億円で、おそらく過去最高水準と思いますが、全般的に需要が上がってきているだけなのか、新しい用途が広がっているなど変化はありますか？

A. ご指摘の通り、ロボットの過去最高の四半期受注高です。もともとコロナ禍からのペントアップ需要で膨らんでいるところもありますが、コロナ禍を契機に自動化への動きが強まっていると感じています。産業全般でロボット化の引き合いが非常に強くなっています。中でも目立つのは車の電動化関連で、米州でも中国でも、いろいろなメーカーが一斉に能増を図ろうとしています。車の電動化関連は、バッテリーや車体周りなど、ロボット化の要求が非常に高まっている印象です。また、中国では IT 産業が集積して自動化に注力しており、そうした関連の引き合いも非常に強いと感じています。

Q. ロボットと FA で部品調達のひっ迫に違いがありますか？

A. 半導体をはじめとした電気・電子部品の調達が苦しいという構造は我々に限らず、世界中のメーカーも同様ではないかと思っています。一方で、半導体をはじめとした電気・電子部品ほどではないにしてもいろいろな機械部品の調達もタイトであり、樹脂関係の世界的な不足もあります。ロボットの受注が増えて何とか生産台数を増やすべく努力している最中ですが、ロボットの部品の調達は FA ほどではないですが苦しいのは確かです。

Q. ロボットの高い受注水準は今後も増え、売上也増えていくのでしょうか？

A. 傾向としてロボットの受注はまだまだ増えていく方向だろうと思っています。部品調達の問題等から納期が長くなっていますが、調達状況が徐々に良くなって来ていることも確かですので、移動平均で見れば売上也期を追うごとに増えていくと思っています。

Q. FA の受注水準について、今後の需要を考えると増加はあまり期待できないのでしょうか？

A. FA の受注について「中国・韓国・台湾で減少」と書いていますが、これは注残がだいぶ増え発注調整がかかっていたためです。実際には中国での需要は非常に旺盛で、もし我々がもっと供給できるのであれば、もっと注文をいただける状況です。能増は喫緊の課題だと思っております。CNC、モータ、アンブを生産する壬生工場は向こう数年ぐらいで建物のキャパシティの上限に達すると考えています。また、ロボットを能増した場合、ロボット用のコントローラ、モータ、アンブも増えてきますのでその分の生産も必要になります。この辺りは計画がまとまりましたら開示します。

Q. FA が伸長する要因として、中国の NC 化率の上昇や、今回ハイライトしている油圧制御から電動制御への置き換えや省エネの部分は影響しますか？

A. 油圧制御から電動制御への置き換えが明確に我々への注文として現れているかというはまだそういう段階ではありません。しかし、工作機械の NC 化の流れ、機械の電動制御への置き換えはどんどん強まっていくと思います。こうした面で、我々が貢献できる余地が大きいと考えており、我々の生産活動のカーボンニュートラルへの取り組みに加えて、商品のエネルギー効率化に今まで以上に力を入れていきたいと考えています。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。